

# 日本政治学会 会報

The JPSA News

No.69

JUNE.2015

## 日本政治学会 2015 年度研究大会について

2015 年度企画委員長 大西 裕

日本の政治学界における政治学会の位置づけは、ここ数年大きなチャレンジを受けていると考えられます。一つはより細分化された、あるいは隣接分野と統合された様々な学会との競合関係であり、もう一つは、グローバル化に伴う海外の学会との連携と競合です。前者は学問の発展に伴い必然的に生まれるトレンドであり、総合的な学会として学問の発展にいかなる貢献が可能なのが問われます。一つの方向性はサブカテゴリー間の相互交流ですが、学会が専門性という、学問の最先端の研究水準を示すという使命との両立が問われることとなります。2015 年の企画委員会では、政治学会として要請される総合性と専門性を多様なプログラムを提供することで満たすように努力し、結果として 15 の企画委員会企画を設置することになりました。一つの対象を複数のディシプリンでアプローチするパターンと、他分野の方でも関心のある特定のテーマを深く追求するパターンの間でバリエーションがありますが、公募等他のセッションも含めて、全体としてバランスが取れた、魅力ある分科会群になったのではないかと考えております。ただもう一つのチャレンジについては、まだ課題のまま残されています。今後の対応が求められるところです。

研究報告の公募では、公募企画・自由論題・ポスターセッション合わせて 50 件近い応募をいただきました。分科会設置数に限りがあるため、応募者全員のご希望には添えませんでした。多数の応募のおかげで、内容に統一感のある 9 の自由論題セッションを作ることができました。公募企

画では、いずれも重要なテーマを扱う 7 つのセッションを設置しました。この他、2 つの国際交流委員会企画、7 つの研究交流委員会企画のセッションがあり、合計で 40 セッションを開催することとなりました。ポスターセッションでも 7 つの報告が予定されています。

共通論題のテーマは、「憲法と政治」です。1980 年代以降、憲法の実証主義的分析が現代政治分析においても重要な領域として認識され、様々なアプローチで研究が進められています。他方、憲法と政治の関係は、政治思想・理論の分野でも、政治史の分野においても常に重要なテーマでありつづけています。安倍政権の発足以降、憲法改正が政治的争点として浮上してきており、憲法問題は現実的に重要性を帯びてきています。そこで、2015 年研究大会の共通論題では、憲法と政治の関係、とりわけ憲法が民主政治を拘束することの意味合い（逆に言えば政治にとって憲法とは何なのか）を、現代政治分析、規範論、政治史的分析の角度から論ずる場になればと考えております。

研究大会は、10 月 10 日（土）と 11 日（日）の 2 日間、千葉大学（西千葉キャンパス）で開催されます。会員の皆様には、是非大会にご参加いただき、活発な議論をお願い申し上げます。最後になりましたが、プログラム策定に多大なご協力をいただきました、研究交流委員会、国際交流委員会、企画委員会の委員の皆様にご感謝申し上げます。

## 日本政治学会2015年度研究大会プログラム（報告タイトルは仮題）

※各セッションの開始・終了時刻には若干の変更  
可能性がありますので、ご注意ください。

第1日 10月10日（土）

（10:00～12:00）分科会（A1～A8）

**A-1：憲法体制改革の政治学～日韓伊の比較分析  
（企画委員会企画）**

司 会：近藤康史（筑波大学）

報 告：待鳥聡史（京都大学）「日本について」  
浅羽祐樹（新潟県立大学）「韓国につ  
いて」

伊藤武（専修大学）「イタリアにつ  
いて」

討 論：岡山裕（慶應大学）

**A-2：自民党政治の現在—多様なアプローチから  
の考察（企画委員会企画）**

司 会：中北浩爾（一橋大学）

報 告：飯尾潤（政策研究大学院大学）「政権  
交代は自民党を変えたのか—政府と  
の関係を中心に」

建林正彦（京都大学）「政党研究にお  
ける自民党というモデル」

小宮京（青山学院大学）「歴史の中の  
自由民主党—結党から現在まで」

討 論：高安健将（成蹊大学）

**A-3：革命と政治（企画委員会企画）**

司 会：高山裕二（明治大学）

報 告：石川敬史（東京理科大学）「アメリカ  
革命と正統制の創設」

熊谷英人（明治学院大学）「フランス  
革命とアリストテレス：世紀転換期  
ドイツの場合」

山本圭（岡山大学）「現代革命の慎み  
深さ？—ポスト・マルクス主義と政  
治的なものについて」

討 論：萩原能久（慶應義塾大学）

**A-4：連立政権の政治力学と政党政治の変容（現  
代政治学研究会）**

司 会：網谷龍介（津田塾大学）

報 告：岩崎正洋（日本大学）「連立政権研究  
と政党政治」

松尾秀哉（北海学園大学）「2014年のベル  
ギー連立交渉：分裂危機の終焉か、  
新しいカオスのはじまりか（仮題）」

西岡晋（金沢大学）「連立政治と福祉  
国家」

討 論：三竹直哉（駒沢大学）

網谷龍介（津田塾大学）

**A-5：戦後思想の再審判（公募企画）**

司 会：大井赤亥（日本学術振興会特別研究  
員）

報 告：大園誠（名古屋大学大学院）「普遍と  
特殊のあいだ—戦後思想の座標軸と  
しての丸山眞男」

新倉貴仁（成城大学）「個人と共同体  
のあいだ—戦後思想としての吉本隆  
明」

神子島健（成城大学／東京理科大学）  
「『ベ平連』後の小田実—第三世界主  
義とグローバリズム」

討 論：松井隆志（武蔵大学）

和田悠（立教大学）

**A-6：自由論題（議会政治）**

司 会：西川賢（津田塾大学）

報 告：三田妃路佳（宇都宮大学）・根元邦朗  
（武蔵大学）「地方議会議員の政策形  
成活動を規定する要因」

矢内勇生（神戸大学）「分割議会が政  
策の内容に与える影響」

久保浩樹（ライス大学）「現代アメリ  
カの分極化と下院議員選挙候補者の  
政策的立場」

討 論：上神貴佳（岡山大学）

西川賢（津田塾大学）

## A-7：自由論題（政治思想）

- 司 会：長妻三佐雄（大阪商業大学）  
報 告：杉本竜也（日本大学）「アレクシス・ド・トクヴィルにおける社会問題「政治」「経済」「社会」をめぐる考察」  
横地徳広（弘前大学）「アレント『人間の条件』における行為と政治—ハイデガーのアリストテレス解釈を手がかりに」  
小松優香（筑波大学）「石橋湛山の思考様式—文明観・人間観・社会論とそれに通底する哲学」  
討 論：小田川大典（岡山大学）  
長妻三佐雄（大阪商業大学）

## A-8：Nationalism and Reconciliation in East Asian Democracies（国際交流委員会企画）

- 司 会：鹿毛利枝子（東京大学）  
報 告：蔡佳泓（Prof. Chia-hung TSAI）（台湾：政治大學）“Regional Divide and Nationalism in Taiwan”  
岡野八代（同志社大学）“Toward a Caring Democracy: A Philosophical Analysis of the Process of Reconciliation of the Issue of “Comfort Women” in Japan.”  
韓国政治学会（未定）「未定」  
討 論：古城佳子（東京大学）

## 第1日（10日）

（13：20～15：20）分科会（B1～B8）

### B-1：政府と市場（企画委員会企画）

- 司 会：曾我謙悟（京都大学）  
報 告：清水直樹（高知県立大学）「制度改革が経済政策に与える影響：政治的景気循環論による分析」  
深谷健（武蔵野大学）「生産者カルテルのゆらぎ：現代日本におけるレントシーキング活動の実証分析」  
村上裕一（北海道大学）「いわゆる Corrosive Capture とその予防方策」  
討 論：久米郁男（早稲田大学）

### B-2：移民の政治学（企画委員会企画）

- 司 会：河野勝（早稲田大学）  
報 告：村上剛（立命館大学）「Comparing the Effects of Candidates' Ethnicity on Voting in Canada and Japan」  
永田智成（首都大学東京）・深澤晴奈（東京大学）「何故スペインでは外国人排斥運動が大規模化しないのか」  
秋田真吾（神戸大学）「革新主義期アメリカにおける熟議と文化多元主義—ジョン・コリアの思想を手掛かりに」  
討 論：松林哲也（大阪大学）  
石川涼子（立命館大学）

### B-3：政治思想と憲法（企画委員会企画）

- 司 会：竹島博之（東洋大学）  
報 告：遠山隆淑（熊本高専）「イギリス憲法の政治思想—ヴィクトリア時代を中心に（仮題）」  
山田徹（行政管理研究センター）「井上毅と帝国憲法（仮題）」  
宇佐美誠（京都大学）「政治における憲法（仮題）」  
討 論：石川健治（東京大学）  
菊部直（東京大学）

### B-4：地方政府における議会・首長・行政職員の動態に関する実証分析（現代政治過程研究フォーラム）

- 司 会：石上泰州（平成国際大学）  
報 告：田口一博（新潟県立大学）「新・議会制度はどのように受容されたか：町村制・本会議主義から地方自治法・委員会中心主義への移行過程」  
金宗郁（香川大学）「市民参加に対する行政職員の認識構造」  
築山宏樹（慶應義塾大学大学院）「知事選挙の得票構造と政治的帰結」  
討 論：大杉覚（首都大学東京）  
谷口尚子（東京工業大学）

## B-5：政権奪還と地方の政治変容（現代地域政治研究会）

- 司 会：白鳥浩（法政大学）  
報 告：浅野一弘（札幌大学）「民主党北海道は復活したのか？」  
善教将大（関西学院大学）「被災地における政治意識の比較分析」  
鶴谷将彦（奈良県立大学）「政権奪還と自民党地方組織—2012年以降の自民党滋賀県総支部連合会を事例に一」  
照屋寛之（沖縄国際大学）「国策を問う沖縄県知事選—保守分裂・脱革新共闘選挙を素材に一」  
討 論：出水薫（九州大学）  
飯田健（同志社大学）  
木寺元（明治大学）

## B-6：「再国民化」と「脱国民化」の相克下のデモクラシー（公募企画）

- 司 会：畑山敏夫（佐賀大学）  
報 告：野田昌吾（大阪市立大学）「「再国民化」と「脱国民化」のはざま—ヨーロッパデモクラシーの現在」  
中谷毅（愛知学院大学）「ヨーロッパ化したドイツにおける「再国民化」」  
小堀眞裕（立命館大学）「復活する「ナショナリズム」—反EUとスコットランド分権」  
討 論：山口二郎（法政大学）  
松尾秀哉（北海学園大学）

## B-7：自由論題（空間と政治）

- 司 会：近藤正基（神戸大学）  
報 告：伊藤岳（東京大学）「内戦における暴力の連鎖・拡散の論理」  
石見豊（国士舘大学）「スコットランド独立住民投票後の英国における分権の状況」  
寺迫剛（行政管理研究センター）「ドイツ連邦州における中層官庁の制度発展と日本における復興庁」  
討 論：近藤正基（神戸大学）

多湖淳（神戸大学）

## B-8：Gender and Politics（国際交流委員会企画）

- 司 会：三浦まり（上智大学）（仮）  
報 告：Claire Annesley（英国：The University of Manchester）“The Gendered Rules of Cabinet Recruitment”  
楊婉瑩（Prof. Wan-ying YANG）（台湾：政治大學）“The Divergences and Convergences of Gender Values between Taiwan and China”  
韓国政治学会（未定）  
討 論：申琪榮（お茶の水女子大学）  
庄司香（学習院大学）

## 第1日（10日）

（15：40～18：00）共通論題

### 「憲法と政治」

- 司 会：大西裕（神戸大学）  
報 告：杉田敦（法政大学）「立憲主義とデモクラシー」  
石田憲（千葉大学）「歴史と比較に見る憲法と政治」  
粕谷祐子（慶應義塾大学）「実証政治分析における国制」  
討 論：河野勝（早稲田大学）  
田村哲樹（名古屋大学）

18：20～20：00 懇親会（於：千葉大学生協施設）

## 第2日 10月11日（日）

（9：30～11：30）分科会（C1～C8）

### C-1：政策デザイン論と政治学（企画委員会企画）

- 司 会：秋吉貴雄（中央大学）  
報 告：伊藤恭彦（名古屋市立大学）「政策デザイン論と政策規範論」  
松田憲忠（青山学院大学）「政策デザイン論と政策分析論」  
岡本哲和（関西大学）「政策デザイン論と政治過程論」  
討 論：北山俊哉（関西学院大学）

## C-2：政治における「悪」(企画委員会企画)

- 司 会：添谷育志 (元明治学院大学)  
報 告：梅田百合香 (桃山学院大学)「政治における悪としての国民の死あるいは国家の死—ホッブズの道徳哲学と善悪の主観性」  
相原耕作 (明治大学)「性善説的政治理論の可能性—儒学・国学における「悪」」  
松元雅和 (関西大学)「政治的悪の規範理論的分析—政治的リアリズムを中心に」  
討 論：中金聡 (国土館大学)

## C-3：日本の対外緊張と二国間外交関係の構造変容—『二国間バッファー・システム』の崩壊?—(企画委員会企画)

- 司 会：大矢根聡 (同志社大学)  
報 告：福永文夫 (獨協大学)「日中関係—国内政治の観点から」  
木宮正史 (東京大学)「日韓バッファー・システムとその動揺」  
富田晃正 (日本学術会議特別研究員)「日米経済交渉におけるバッファー・システムの存在—生成・機能・消滅」  
討 論：河野康子 (法政大学)

## C-4：政治不信時代における欧米の国政・地方選挙：代表制民主主義の危機 (欧米政治研究会研究交流委員会)

- 司 会：櫛田久代 (敬愛大学)  
報 告：前嶋和弘 (上智大学)「2014年アメリカ中間選挙：分極化と政治不信」  
上原良子 (フェリス学院大学)「フランスにおける2014年選挙：政治不信と政党の危機」  
渡辺容一郎 (日本大学)「2015年イギリス総選挙：政党機能の劣化?」  
討 論：菅原和行 (釧路公立大学)  
八十田博人 (共立女子大学)

## C-5：東南アジア自治体エリートサーヴェイ分析 (公募企画)

- 司 会：北村亘 (大阪大学)  
報 告：永井史男 (大阪市立大学)・籠谷和弘 (関東学院大学)「タイにおける自治体能力向上の要因分析—2006年自治体サーヴェイ・データから」  
西村謙一 (大阪大学)・小林盾 (成蹊大学)・菊地端夫 (明治大学)「フィリピンにおけるよい地方ガバナンスの決定要因」  
砂原庸介 (大阪大学)「インドネシア地方自治体における政治的リーダーシップ、地方官僚制、及び自治体パフォーマンス」  
討 論：山本英弘 (山形大学)  
金宗郁 (香川大学)

## C-6：批判的政治学にむけて—マルクスと政治学 II (公募企画)

- 司 会：堀雅晴 (立命館大学)  
報 告：小林誠 (お茶の水女子大学)「批判的国際政治研究の到達点と課題—マルクスと国際政治」  
二宮元 (流通科学大学)「現代イギリスにおける国家構造の史的再編—新自由主義改革の諸段階」  
山本公德 (岐阜大学)「第三次安倍政権の日本政治史上の位置—国家論的アプローチ」  
討 論：堀雅晴 (立命館大学)  
久保木匡介 (長野大学)

## C-7：自由論題 (現代日本政治1)

- 司 会：石橋章市朗 (関西大学)  
報 告：Karol Zakowski (ウッジ大学)「安倍第一次と第二次政権による対中官邸外交の比較」  
澤田道夫 (熊本県立大学)「合併及び非合併市町村における住民意識の比較」  
前田幸男 (東京大学)・平野浩 (学習院大学)「内閣支持と投票選択—

JES-IV (2007-2010) データの分析」

討 論：石橋章市朗 (関西大学)

大村啓喬 (滋賀大学)

## C-8：自由論題 (現代日本政治2)

司 会：空井護 (北海道大学)

報 告：堀内慎一郎 (慶應義塾大学)「労働組合版55年体制」形成の萌芽—独立青年同盟の結成と排撃」

勝又裕斗 (東京大学)「中選挙区における選挙競争のダイナミクス」

和嶋克洋 (筑波大学)「自民党族議員の盛衰の組織的過程」

討 論：孫齊庸 (立教大学)

空井護 (北海道大学)

## 第2日 (11日)

(13:10~15:10) 分科会 (D1~D8)

### D-1：現代日本における社会保障政策の政治過程 (企画委員会企画)

司 会：稗田健志 (大阪市立大学)

報 告：遠藤晶久 (高知大学)「高齢化社会における福祉と世論」

千田航 (北海道大学)「女性の活躍推進と脱家族化—日本における家族政策の再編?—」

関智弘 (神戸大学)「生活保護ケースワーカーの職種間比較—組織人と職業人の分岐点—」

討 論：大村華子 (関西学院大学)

辻由希 (東海大学)

### D-2：権威主義体制における政治制度の役割 (企画委員会企画)

司 会：粕谷祐子 (慶応義塾大学)

報 告：加茂具樹 (慶應義塾大学)「中国共産党による一党体制の持続と民主的な政治制度：人民代表大会制度と中国人民政治協商会議制度」

東島雅昌 (早稲田大学/European University Institute)「権威主義体制下の選挙と体制の存続：中央アジアの事例研究と国際比較の統計分

析」

石黒大岳 (アジア経済研究所)「ロシア国家における政治参加はガバナンスの向上をもたらすか：中東湾岸産油国における腐敗防止と議会・司法の役割」

討 論：林載桓 (青山学院大学)

粕谷祐子 (慶応義塾大学)

### D-3：安倍政権の対外政策の検証 (企画委員会企画)

司 会：細谷雄一 (慶応義塾大学)

報 告：北岡伸一 (国際大学)「安倍政権の対外政策」

川島真 (東京大学)「安倍政権と日中関係」

遠藤誠治 (成蹊大学)「積極的平和主義の批判的検証」

討 論：藤原帰一 (東京大学)

井上正也 (成蹊大学)

### D-4：最近の国政選挙における選挙行動 (日本政治過程研究会)

司 会：竹中佳彦 (筑波大学)

報 告：谷口将紀 (東京大学)「経済投票におけるマルチストアモデル—2013年参院選の場合」

小林良彰 (慶応義塾大学)「2014年衆院選における選挙行動の継続と変化」

名取良太 (関西大学)「2014年衆院選における選挙区競争環境と投票行動」

飯田健 (同志社大学)「社会的亀裂と2000年代以降の国政選挙」

討 論：小野耕二 (名古屋大学)

前田幸男 (東京大学)

### D-5：平等論とデモクラシーの現在 (公募企画)

司 会：苅部直 (東京大学)

報 告：宇野重規 (東京大学)「「平等」問題の来歴—トクヴィルから現代まで」

佐藤健太郎 (千葉大学)「近代日本政

治史における「平等」  
池田弘乃（山形大学）「性の平等をめ  
ぐる法と政治」

討 論：川崎修（立教大学）  
岡野八代（同志社大学）

## D-6：黒いヨーロッパ：欧州統合史の複線的理解 のために（公募企画）

司 会：今野元（愛知県立大学）  
報 告：板橋拓己（成蹊大学）「『西洋を救え！』  
—西独アデナウアー政権と「アーベ  
ントラント」運動」  
今野元（愛知県立大学）「ドイツ難民  
同盟とヨーロッパ統合—ヘルベル  
ト・チャヤを中心に」  
福田宏（愛知教育大学）「旧ハプスブ  
ルク君主国の貴族とヨーロッパ：  
クーデンホーフ伯爵とロアン公爵」  
討 論：北村厚（東京成徳大学高等学校）  
遠藤乾（北海道大学）

## D-7：自由論題（アジア政治）

司 会：浜中新吾（山形大学）  
報 告：横田将志（日本大学）「地域環境協力  
とマクロな地域協力・地域統合との  
関係性に関する一考察」  
川中豪（アジア経済研究所）・間寧  
（アジア経済研究所）「新興民主主義  
における所得格差の政治的決定要  
因」  
尹月（東京大学）「権威主義体制は中  
国人の民主主義意識にどのような影  
響を及ぼしているのか？」  
討 論：窪田悠一（新潟県立大学）  
高橋若菜（宇都宮大学）

## D-8：自由論題（規制行政）

司 会：松並潤（神戸大学）  
報 告：光延忠彦（島根県立大学）「ガソリン  
価格の政治的要因に関する一考察」  
早川有紀（東京大学）「リスク規制政  
策の波及：EU化学物質規制の日本  
への影響」

討 論：松並潤（神戸大学）  
深谷健（武蔵野大学）

## 第2日（11日）

（15:30～17:30）分科会（E1～E8）

## E-1：アラブ系移民／難民の越境移動：中東と欧 州における比較研究（企画委員会企画）

司 会：浜中新吾（山形大学）  
報 告：錦田愛子（東京外国語大学）「再難民  
化する難民たち—中東から北欧を目  
指すアラブ系住民の移動」  
清水謙（東京大学）「スウェーデンに  
おける移民／難民のプル要因の分析  
—「積極的外交政策」に着目して—」  
高岡豊（中東調査会）・溝渕正季（名  
古屋商科大）「なぜ彼らはジハード  
に向かうのか？欧州在住アラブ系移  
民・難民と外国人戦闘員問題」  
討 論：小川有美（立教大学）

## E-2：行政の信頼（企画委員会企画）

司 会：牛山久仁彦（明治大学）  
報 告：村山皓（立命館大学）「行政信頼を政  
治信頼から区別する意味」  
野田遊（愛知大学）「リーダーを信じ  
るか参加か—都知事のリーダーシッ  
プに対する都民意識」  
南島和久（神戸学院大学）「米国連邦  
政府におけるガバナンス改革—  
GPRAMA と政府部内との関係」  
討 論：大山耕輔（慶応義塾大学）

## E-3：政党デモクラシーの空洞化と代表制デモク ラシーの変容（企画委員会企画）

司 会：野田昌吾（大阪市立大学）  
報 告：網谷龍介（津田塾大学）「『競合』はデ  
モクラシーを支えられるのか—ヨー  
ロッパ政党政治の実態から考える」  
空井護（北海道大学）「政党デモクラ  
シーの空洞化とは何か」  
討 論：砂原庸介（大阪大学）  
鵜飼健史（西南学院大学）

## E-4：民主政治下での長期政権のメカニズムと政策形成—佐藤栄作政権の内政と外交を通して（戦前戦後・比較政治史研究フォーラム）

- 司 会：清水唯一朗（慶應義塾大学）  
報 告：村井哲也（明治大学）「首相官邸とSオペレーションの融合とその歴史的意義1964-1967」  
村井良太（駒澤大学）「佐藤栄作政権と大学紛争—政策決定プロセスと首相のリーダーシップに注目して」  
中島琢磨（龍谷大学）・井上正也（成蹊大学）「Sオペレーションと佐藤外交—中国問題と沖縄返還を中心として」  
討 論：河野康子（法政大学）  
中北浩爾（一橋大学）

## E-5：政治学における実験・データ生成・分析に関する方法論的探究と課題」（政治学方法論研究会）

- 司 会：品田裕（神戸大学）  
報 告：福元健太郎（学習院大学）「Blocking Reduces, if not Removes, Attrition Bias」  
三輪洋文（東京大学）「有権者のイデオロギーの統計モデリング—認識・強度・方向性」  
谷口尚子（東京工業大学）・クリス・ウィンクラー（ドイツ日本研究所）「政党公約の国際比較—日本の政党公約の相対化と方法論的課題」  
討 論：肥前洋一（高知工科大学）  
遠藤晶久（高知大学）

## E-6：政治学研究は何を語ってこなかったか—フェミニズムの視座を踏まえて（公募企画）

- 司 会：山田竜作（創価大学）  
報 告：関口すみ子（法政大学）「『新しい男』の到来—20世紀初頭の日本における『男の貞操』問題の浮上」  
愛甲雄一（専修大学）「『子ども』と国際関係論—子ども兵士をめぐる」  
討 論：三浦まり（上智大学）

衛藤幹子（法政大学）

## E-7：自由論題（市民と政治）

- 司 会：乙部延剛（茨城大学）  
報 告：坂井亮太（早稲田大学）「熟議過程における認知の偏りと集合的決定—多様性を活かす解決策の探求—」  
武居寛史（東京大学）「協調ゲームにおける伝達情報が制限されたコミュニケーションの効果」  
西山真司（名古屋大学）「政治学におけるエスノメソドロロジーの寄与」  
討 論：乙部延剛（茨城大学）  
境家史郎（首都大学東京）

## E-8：自由論題（政治理論）

- 司 会：井上彰（立命館大学）  
報 告：斉藤尚（東北学院大学）「ケネス・アローの正義論」  
松尾哲也（鳥根県立大学）「政治哲学と政治を架橋するもの—レオ・シュトラウスを中心として—」  
松井陽征（明治大学）「M・オークショットの近代国家論—とくに『道徳的慣行』概念とのかかわりで—」  
討 論：加藤哲理（名古屋大学）

## 第2日（11日）

### （13:10~17:10）ポスターセッション：政治学 のフロンティア（F1~F8）

- F-1：梅田道生（愛媛大学）「参院選における党首訪問先の研究：不均一な選挙制度が政党の選挙資源の戦略的配分に与える影響」  
F-2：田中智和（上宮高等学校）「テレビドラマから考える政治学教育」  
F-3：佐藤智美（日本安全保障・危機管理学会）「スタックスネット事件の政治学的な一考察：米・イスラエル両情報機関の情報戦の失敗の教訓から日本が学ぶべきものとは何か？」  
F-4：北村浩（公益財団法人 政治経済研究所）「社会的排除からの包摂をめぐる—ソーシャルワークの実践における規範的政治理論の可能性・3—」



F-5：小椋郁馬（東京大学大学院）「アメリカの有権者におけるイデオロギー的分極化の拡大」

F-6：松井孝太（杏林大学・東京大学大学院）「米国政治の分極化と高齢者介護政策」

F-7：平山実（東京海上日動火災保険株式会社）「戦後日本の軍政民関係―軍はなぜ政治に従ったか―」

## 研究大会報告論文の公開・入手方式について

### 日本政治学会事務局

日本政治学会では、報告論文をウェブページ上に公開したうえで、ダウンロードにより会員が各自でご入手いただく方式を採用し、研究大会期間中の報告論文の販売は行っていません。これは、販売・頒布用の報告論文の印刷といった報告者をはじめとする方々の負担を軽減することを目的とした方式です。本年度も同様の方式を採用させていただきます。

なお、ウェブページを経由した報告論文へのア

クセスは会員の方々に限定させていただきます。準備が整い次第、会員の皆様には閲覧・ダウンロードのためのパスワードをお知らせいたします。また、報告論文の閲覧・ダウンロード期間は、研究大会期間をはさんでその前後約2週間ずつを予定しております。以上、今年度も皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 研究大会開催校（千葉大学）からのお知らせ

2015年度大会・研究会は、10月10日（土）、11日（日）の両日、千葉大学西千葉キャンパスで開催されます。会場が、けやき会館・文学部棟・法政経学部棟・人文社会科学総合研究棟などいくつかの建物に分かれる形となっており、ご不便をおかけいたしますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

### ① 参加申込

今回の大会・研究会では、葉書・インターネットによる事前参加申込みは行いません。懇親会費は、当日会場受付にてお支払いくださいますようお願いいたします。

### ② 会場ならびに会場アクセス

会場は千葉大学西千葉キャンパスです。JR総武線（各駅停車）西千葉駅より西千葉キャンパス南門まで徒歩2分、京成みどり台駅より西千葉キャンパス正門まで徒歩7分となっております。キャンパス内の建物配置については、千葉大学

ホームページから「Campus Map」→「西千葉キャンパスマップ」に入ってください。

### ③ 昼食

開催日は土日のため、大学内の飲食施設は営業していません。大学の近隣で営業している店舗をご利用下さい。

### ④ 懇親会

大会初日の懇親会は、西千葉キャンパス内にある生協フードコート2で行います。懇親会費は、5,000円を予定しています。

### ⑤ 託児所

託児所は会場には開設しませんので、あらかじめご了解頂きますよう宜しくお願いいたします。

### ⑥ 宿泊

西千葉駅周辺には宿泊施設がございませんので、JR・京成千葉駅周辺あるいは幕張メッセ付

---

## 学 会 ニ ュ ー ス

---

近（JR総武線（各駅停車）幕張本郷駅からバスで移動）にある宿泊施設をご利用頂くのが便利です。各自早めにご予約くださいますようお願いいたします。

問い合わせ先：関谷 昇  
noboru@faculty.chiba-u.jp  
Tel & Fax：043-290-2409

千葉大学法政経学部  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

※お問い合わせは、できるだけEメールでお願いいたします。

## 『年報政治学』 独立論文公募のお知らせ

査読委員会委員長 谷口 尚子

『年報政治学』では論文を公募しています。公募論文は、「特集」テーマに関連した「特集論文」と、特定のテーマにとらわれない「独立論文」の2種類に区分されます。「独立論文」は、特定の締切り期日を設けず受け付けています。ただし編集の都合上、2016年度第I号（2016年6月刊行予定）に掲載を希望される会員は、2015年10月20日までに下記の送付先に原稿をご提出ください。公募論文には査読による審査が行われます。審査を公正かつ迅速に行うため、正副委員長のほか5名の委員からなる査読委員会が設けられています。査読委員会は、原則として会員の中から査読者を選び、査読結果にもとづいて掲載論文を確定いたします。論文投稿の詳細については、日本政治学会ホームページに掲載されている「論文投稿規程」および「査読委員会規程」をご覧ください。なお、二重投稿は規定により禁止されていることを申し添えます。

\*原稿送付先：

〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学 西9号館

大学院社会理工学研究科「谷口尚子研究室」内  
日本政治学会査読委員会

電子メール：naokot@valdes.titech.ac.jp

\*投稿規程

独立論文・特集論文ともに学会ホームページ (<http://www.jpsa-web.org/toukou.html>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて上記へ送付して下さい。投稿規程により、未発表でない論文、論文の分量（注、参考文献、図表を含め原則20,000字以内）を超過している論文、また応募時点の年度の会費を納入済みでない会員の論文は受理できませんので、投稿前に必ず規程をご確認ください。分量の計算については、<http://www.jpsa-web.org/bunnryou.html> を併せてご参照ください。

## 『年報政治学』 2016年度第I号特集論文公募のお知らせ

2016年度第I号年報委員長 荻部 直  
査読委員会委員長 谷口 尚子

2016年度第I号（2016年6月刊行予定）のテーマは「政治と教育」です。

アリストテレスに、また朱子の例にも見られるように、古来、政治と教育とは密接に関連しあうものと考えられてきました。しかし現在、教育は政治学の主要な対象と見なされません。これに対して近年のシティズンシップ教育論議の高まりや多文化主義の動向は、教育を政治との関係のうちに新たに位置づける必要を迫っています。

その研究にはさまざまなアプローチがありうるでしょう。政治参加のための資質とはいかなるものかを論じた政治思想の研究。歴史上、さまざまな地域において政治と教育との関係がいかに制度

化されていたかを探る政治史研究。現代において教育制度と政治意識のあり方との関係を分析する実証研究。現在また今後の日本における「教育政治」のありようを考える試みなどなど。

『年報政治学』の60年以上にわたる蓄積のうえで、「教育」を主題として研究する初めての機会です。また、選挙参加年齢の引き下げが実現されるかもしれないタイミングを迎え、メディアや一般社会からの注目も集めることでしょう。

そこで、このテーマに関連する研究論文の投稿を広く日本政治学会会員から募りたいと思います。多くのみなさんからのご投稿をお待ちします。原稿の締切は2015年10月20日（消印有効）

とします。投稿原稿は学会ホームページ (<http://www.jpasa-web.org/>) に掲載されている投稿規程

に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付ください。

## 『年報政治学』 2016年度第Ⅱ号特集論文公募のお知らせ

2016年度第Ⅱ号の特集テーマは、「政党研究のフロンティア」といたしました。

政党は、近代民主主義と政治学の双方にとってなじみ深い存在であり、長く研究が続けられてきたテーマです。しかし近年、一方において支持層との関係の希薄化など政党そのものが変容し、他方においては方法論的緻密化を中心として政党研究にも大きな変化が生じつつあります。

比較政治学や現代日本政治研究といった、これまで政党研究が主に展開されてきた分野だけでは

2016年度第Ⅱ号年報委員長 待鳥 聡史  
査読委員会委員長 谷口 尚子

なく、政治理論や政治史などを含む幅広い分野から、テーマ選択、先行研究との関係、方法的特徴、そして知見に関して、政党の学術的把握の深化に資する優れた論文をお待ちしております。

原稿の締切は2016年3月20日（消印有効）とします。その他のルールはすべて日本政治学会ホームページ (<http://www.jpasa-web.org/>) 掲載の投稿規程に従い、メールおよび郵送にて査読委員会宛にお送り下さい。

## 『年報政治学』 2017年度第Ⅰ号特集論文公募のお知らせ

2017年度第Ⅰ号（2017年6月刊行予定）のテーマは「世界経済の変動と政治秩序（仮題）」です。

世界金融危機に顕著なように、経済のグローバル化の進展に伴う世界経済の変動は、国内政治及び国際政治の秩序に大きな影響を与えています。市場と政府（国家）の関係については、国際政治経済学や比較政治学において多くの研究がなされてきましたが、近年、改めて世界経済の変動が政治秩序にどのような変容をもたらすのかについて

2017年度第Ⅰ号年報委員長 古城 佳子  
査読委員会委員長 谷口 尚子

の関心が高まっています。国際政治経済学、比較政治学にとどまらず、歴史、政治理論も含む多様な分野からの意欲的な投稿をお待ちしています。

原稿の締切りは2016年10月20日（消印有効）とします。投稿原稿は学会ホームページ (<http://www.jpasa-web.org/>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

## 英文雑誌論文公募のお知らせ

英文雑誌編集委員会委員長 西川 伸一

日本政治学会の英文雑誌 *Japanese Political Science Review* 第3号は2016年8月に刊行の予定です。今号では特集方式はとりません。また、オンライン・ジャーナルであることのメリットを発揮するため、原稿提出について特段の締切日は設定しません。査読の上、掲載可となったものから順次ウェブ上に先行公開していくこととします。以下の要件をご確認のうえ、ふるってご応募ください。

### 1. 応募資格

日本政治学会の会員であり、応募の時点で当該年度の会費を納入済みの会員。

### 2. 既発表論文投稿の禁止

応募できる論文は未発表のものに限ります。

### 3. 二重投稿の禁止

同一の論文を本英文雑誌以外に同時に投稿することはできません。

### 4. 論文の分量および執筆にあつての注意事項

日本政治学会のHP内にある *Japanese Political Science Review* のページに記載されています。これを遵守してください。

### 5. 投稿申込書およびスタイルガイド

同じページ下段にリンクされている英文投稿申込書をダウンロードして使用してください。詳細なスタイルガイドもここから閲覧できますので、執筆にあたってはこれに準拠してください。

### 6. 論文の送付方法と送付先

電子メールにて [nisikawa1116@gmail.com](mailto:nisikawa1116@gmail.com) (西川伸一) まで。

## 2014年度日本政治学会第4回理事会議事録

1. 日 時：2014年12月20日（土）14時00分～16時00分

2. 場 所：〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学東京キャンパス文京校舎122教室

3. 出席者：辻中豊（理事長）、秋月謙吾、浅野一弘、池谷知明、宇野重規、大西裕、小川有美、荏部直、久米郁男、河野武司、古城佳子、小西徳應、齋藤純一、白鳥浩、田中愛治、谷口尚子、玉井清、田村哲樹、照屋寛之、名取良太、西川伸一、三浦まり、待鳥聡史、藪長千乃、横田正顕（以上、理事）、竹中佳彦（常務理事）、近藤康史、森裕城（以上、幹事）

### 4. 議題

#### 〈審議事項〉

#### (1) 入退会承認について

8名の入会申請があり、いずれも承認された（敬称略）。

#### 一般会員（3名）

錦田愛子、多湖淳、栗崎周平

#### 学生会員（5名）

杉谷和哉、大山貴稔、鈴木眞志、福原正人、李乙鎮

この他、竹中常務理事から、申し出による退会1名があったこと、また8月に所属先から退会との連絡があったが、11月に本人より会費が納付されたため、本人に確認したところ、所属先が誤解していたということで会員の資格を元に戻したことが報告された。以上の結果、会員数は1,804名（終身会員：160名、シニア会員：60名、一般

会員：1,408名、学生会員：176名）となった。

## (2) 査読委員会副会長等について

谷口委員長から、査読委員会の副委員長適任者として辻中理事長より推薦された一名の理事の氏名の紹介があり、査読委員会規程第1項に基づいて理事会として同理事を副委員長に任命した。また規程第1項に基づき、谷口委員長から推薦された会員を査読委員会委員に任命した。

## (3) 査読委員会規程の改正について

谷口委員長から、査読委員会構成員氏名の公表のルールについて現行の査読委員会規程第12項を変更したい旨、資料により提案があった。提案内容は、①副委員長の任期中の匿名について言及がないので文言を加える、②副委員長・査読委員が任期終了後にその任にあったことを公表することを妨げない、というものであったが、②に関して他の理事よりいくつかの意見が出されたため、この件に関しては継続的に審議するものとし、次回3月の理事会で結論を出すことになった。

## (4) 前理事会からの引継ぎ事項について

竹中常務理事から、前理事会からの引継ぎ事項として、①大会・総会開催時のリスク管理、②法人化、③各種委員会のマニュアルの充実の3点があることが、資料により紹介された。今後、理事会として継続的に検討し、2年の期間に一定の答えを出していくことが確認された。

## (5) 会員名簿の作成について

竹中常務理事から、2015年中に作成する会員名簿について、①いつ発行するか、②調査項目をどのようなものにするか、③オンライン化の検討をする必要があるかについて、理事会として検討すべき案件の紹介が資料に基づいてなされた。議論の後、今回の名簿に関しては通常の紙媒体の名簿を12月に発行することが確認され、オンライン化については理事会として引き続き検討していくことになった。

## (6) 研究業績自己申告について

信夫2015年文献委員長（竹中常務理事代読）

から、学会HPからの業績申告書の書式をダウンロードできる環境を整えたい旨の提案があり、承認された。なお、今回の変更は、申告書の書式をダウンロードできるようにするというものであり、自己の業績とともに文献委員会宛てに郵送する等の現行の方式は変わらないという点があわせて確認された。

## (7) 日韓国交正常化50周年国際シンポジウムについて

辻中理事長から、辻中理事長と韓国政治学会の会長との間で、日韓国交正常化50周年記念国際シンポジウム（「2015年体制と日韓協力の未来ビジョン(案)」）を2015年5月に東京で開催する企画が持ち上がっているとの話の紹介が資料によりなされた。続いてシンポジウム開催の妥当性、実現性の検討がなされ、事務局の関与の仕方、主催のあり方などについて疑問が出された。本シンポジウムの開催については、今後も引き続き慎重に検討していくことを前提に、辻中理事長と韓国政治学会、東亜日報、朝日新聞の四者が意見交換をすることについて承認された。シンポジウムを開催するかどうかに関しては、最終的に次回3月の理事会で決定することになった。

## 〈報告事項〉

### (1) 2014年度開催校からの報告

齋藤理事から、早稲田大学にて大過なく研究大会が開催されたことが報告された。大会運営の決算に関して資料により報告があった。

### (2) 2015年度、2016年度開催校の準備状況について

#### ① 2015年度開催校

2015年度開催校・千葉大学の関谷理事（竹中常務理事代読）から、現在の準備状況が資料により報告された。

#### ② 2016年度開催校

2016年度開催校・立命館大学の佐藤理事（竹中常務理事代読）から、現在の準備状況が報告された。

## (3) 各種委員会報告

### ①2015年度企画委員会

大西委員長から、現時点における活動状況と大会企画公募手続きの変更（応募用ウェブサイトに必要な事項を記入する形式の採用）について、資料により報告があった。

### ②2016年度企画委員会

齋藤委員長から、現時点における活動状況が報告された。

### ③年報2014-Ⅱ編集委員会

吉野委員長（竹中常務理事代読）より、編集作業の遅れのため、年報の刊行は1月になることが報告された。竹中常務理事より、木鐸社への事情聴取結果が紹介されたうえで、本来同封されるはずだったニューズレターは別に発送し、年報の発送費用（14万円程度）を予備費から賄うことが報告された。

### ④年報2015-Ⅰ編集委員会

小川委員長より、現時点における活動状況が報告された。

### ⑤年報2015-Ⅱ編集委員会

池谷委員長より、1月に編集委員による研究会合宿を行う予定であり、計画案を事務局に提出したところ、補助を受けられることになったことが報告された。

### ⑥年報2016-Ⅰ編集委員会

荏部委員長より、委員として菅野聡美会員（琉球大学）を追加し、1月より研究会を開催していく旨の報告があった。

### ⑦年報2016-Ⅱ編集委員会

待鳥委員長から、現時点における活動状況が報告された。

### ⑧年報2017-Ⅰ編集委員会

古城委員長から、委員の追加について資料により報告があった。追加される委員の氏名・所属は以下の通り。内山融（東京大学）、杉之原真子

（東京大学）、山田高敬（首都大学東京）の各氏。

### ⑨年報2017-Ⅱ編集委員会

久米委員長から、現時点における活動状況が報告された。

### ⑩2016年文献委員会

田村委員長から、現時点における活動状況が報告された。

### ⑪2015年書評委員会

酒井委員長（竹中常務理事代読）から、現時点における活動状況が報告された。

### ⑫2016年書評委員会

宇野委員長から、現時点における活動状況と委員会活動のマニュアル作成を進めている旨の報告があった。

### ⑬研究交流委員会

堤委員長（竹中常務理事代読）から、欧米政治研究会（代表・渡辺容一郎会員）の設置が承認されたことと現代地域政治研究会の責任者が白鳥浩会員から照屋寛之会員に交代した旨、資料により報告があった。この他、11月初旬に各分野別研究会責任者に対して2015年度大会における分科会設置申請の案内を行ったこと、分野別研究会が一般の政治学会会員に対して報告の募集を行いたい旨の申し出があったがそれを認めなかったこと、2013年末に各分野別研究会に対して分野別研究会の趣旨や参加者名簿、活動計画等を提出するように求めていたが、未提出となっている研究会があり、対応を検討する必要があることが報告された。

### ⑭国際交流委員会

三浦委員長から、来年度の研究大会における2つのパネルの内容を検討中であるが、これまでのように地域別（日韓、日英など）で考えるのではなく、テーマ別にパネルを構成する方向で検討に入っている旨の報告があった。

## ⑮英文雑誌編集委員会

西川委員長から、現時点における活動状況について報告があった。

## ⑯査読委員会

谷口委員長から、現在の査読委員会の活動状況が報告された。2014年10月中旬以降12月初旬に至るまでに12本の論文投稿があり（そのうちの2本は2015年度第I号特集論文への応募論文）、12本すべての論文が初回査読中とのことである。

## (4) IPSA 関連

田中理事から、IPSAの新ジャーナル *World Political Science* (WPS) の概要について詳細な報告があった。WPSは54カ国の各国政治学会がその国の言語で書かれた政治学の論文でベストと考えるものを選び、英語に翻訳してWPSの編集委員会に投稿するというシステムを採用している。日本政治学会としてWPSにどのような対応

をとるべきかについて、次回3月の理事会で審議することが確認された。

## (5) 事務局報告

①学会HPの更新とその内容について報告があった。

②会費未納の会員に対して督促が行われたことが報告された。

## (6) 次回理事会（2014年度第5回理事会）の開催について

以下の開催予定が報告された。

日 時：2015年3月14日（土）14時00分～

場 所：〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1  
筑波大学 東京キャンパス文京校舎  
121教室

以上

## 2014年度日本政治学会第5回理事会議事録

2015年1月10日（土）、持ち回り

第4回理事会終了後、通例、6月の理事会で行っている会費未納による退会の手続きを、本年度第1回理事会（2014年6月21日）で行っていないことが判明したため、この件を持ち回り理事会とし

て審議した。

本理事会では28名の退会が了承された。これにより、会員数は1,776名となった。

以上

## 2014年度日本政治学会第6回理事会議事録

1. 日 時：2015年3月14日（土）14時00分～16時00分
2. 場 所：〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学東京キャンパス文京校舎121教室
3. 出席者：辻中豊（理事長）、秋月謙吾、浅野一弘、宇野重規、大西裕、小川有美、荻部直、河野武司、古城佳子、小西徳應、齋藤純一、信夫隆司、白鳥浩、関谷昇、谷口尚子、玉井清、堤英敬、名取良太、西川伸一、藪長千乃（以

上、理事）、竹中佳彦（常務理事）、磯崎典世（監事）、近藤康史、森裕城（以上、幹事）

## 4. 議題

〈審議事項〉

(1) 入退会承認について

10名の入会申請があり、いずれも承認された（敬称略）。



一般会員（8名）

古矢一郎、清水聡、伊藤岳、池田弘乃、小椋郁馬、村上剛、永田智成、関口すみ子

学生会員（2名）

久保浩樹、源島穰

第5回理事会時の会員数1,776名、この間の退会者数6名（うち申し出による退会1名、逝去による退会5名）であり、今回の入会承認者10名を加えた結果、会員数は1,780名（終身会員：157名、シニア会員：58名、一般会員：1,394名、学生会員：171名）となった（なお、入会承認者の会員資格発生は4月2日なので、2015年の理事選挙権はない）。

## (2) 会員名簿について

竹中常務理事から、第4回理事会で名簿発行を決定したが、見積りをとったところ、現在の名簿作成積立金では賄えないことが配付資料により報告された。そこで、旧来の冊子形式の名簿を作成せず、オンラインで会員が自己の情報を修正できる「マイページ」に移行すること、その情報を正確なものにするための調査を実施することが提案され、承認された。

## (3) 2014年度決算案および2015年度予算案について

### ① 2014年度決算案

竹中常務理事から、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2014年度決算案が配付資料により説明された。ついで磯崎監事より、3月14日午前10時から、国際文献社にて、岡本監事とともに監査を行い、会計処理が適正に行われたことを確認したことが報告された。審議の結果、2014年度決算案と監査が承認された（なお、岡本監事は所用のために午前中の監査業務の後、監査報告を磯崎監事に委任の上、中座した）。

### ② 2015年度予算

竹中常務理事から、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2015年度予

算案が配付資料により説明された。審議のうえ予算案は承認された。

## (4) J-STAGEへの『年報政治学』論文掲載について

竹中常務理事から、J-STAGEへの『年報政治学』論文掲載について、①『年報政治学』2010年度以降の特集論文の執筆者に対して、J-STAGEへの論文掲載に伴う複製・公衆送信の許諾が得られていないこと、②木鐸社から提供されたデータが、テキストの入ったPDFではないため、J-STAGE掲載に必要な書誌情報を入力、OCRを経て、校正作業をしなければならず国際文献社では対応できないことの2点の問題が発生していることが配付資料により報告された。①に関しては、2010年度から2014年度I号の特集論文執筆者に対して、事務局が、論文の複製とJ-STAGE上での公衆送信の許諾を得ることとし、2014年度II号から2017年度II号までの特集論文執筆者に対しては、各号の年報編集委員長から、特集論文執筆者に対して、論文の複製とJ-STAGE上での公衆送信の許諾を現時点で得てもらうこととした。あわせて『年報政治学』論文投稿規程の改正を検討することとなった。②に関しては、できるだけ早い号から、すべての論文について、アブストラクト（英文要旨及び和文要旨）、キーワード、引用文献一覧を付すよう義務づけることとし、その他の点に関しては今後事務局を中心に検討していくことが確認された。

## (5) 「会報」の「会員異動」について

竹中常務理事から、「マイページ」が稼働した後、「会報」における「会員異動」の欄を廃止する旨提案があり、承認された。

## (6) IPSAのWorld Political Scienceへの対応について

辻中理事長から、IPSAのWorld Political Scienceへの対応について説明があった。日本政治学会として、『年報政治学』から1年に1本の論文を選んで英訳し、論文を提供していくという方向性が示され、承認された。

## (7) 日韓国交正常化50周年国際シンポジウムについて

辻中理事長から、日韓国交正常化50周年国際シンポジウムについて、三浦国際交流委員会委員長・池日韓交流小委員会委員長作成の資料（「日韓修好50周年記念国際シンポジウム企画案」）に基づいて説明があった。テーマを「日韓協力の未来ビジョン：なぜお互いが必要か？」（仮）とし、日本政治学会・韓国政治学会主催、朝日新聞社・東亜日報後援で2015年5月23日（土）に北海道大学スラブユーラシア研究センター4階大会議室において開催することが承認された。実行委員会を組織し、委員長を磯崎典世会員（学習院大学）に依頼すること、国際シンポジウム開催費を活用することも承認された。

### 〈報告事項〉

#### (1) 開催校の準備状況について

##### ① 2015年度開催校（千葉大学）

関谷理事より、現時点における開催準備状況について報告があった。

##### ② 2016年度開催校（立命館大学）

佐藤理事（竹中常務理事代読）より、現時点における開催準備状況について報告があった。

#### (2) 各種委員会報告

##### ① 2015年度企画委員会

大西委員長から、研究大会の応募・企画状況について、現時点で、共通論題：1、企画委員会企画：15、研究交流委員会企画：7、公募7、自由論題：9、国際交流委員会企画：2のセッションを予定していること、ポスターセッションは7件応募が来ていることが、配付資料により報告された。

##### ② 2016年度企画委員会

齋藤委員長より、現時点における活動状況が報告された。

##### ③ 年報2015- I 編集委員会

小川委員長より、年報2015- I 号は、特集「政治理論と実証研究の対話」に関連する論文7本、

独立論文5本の構成で刊行される旨報告があった。

##### ④ 年報2015- II 編集委員会

池谷委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

##### ⑤ 年報2016- I 編集委員会

苅部委員長より、現時点における活動状況が報告された。

##### ⑥ 年報2016- II 編集委員会

待鳥委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

##### ⑦ 年報2017- I 編集委員会

古城委員長より、編集委員として新たに安高啓朗会員（立命館大学）を追加する旨報告があった。

##### ⑧ 2015年文献委員会

信夫委員長より、現時点における活動状況が配付資料により報告された。

##### ⑨ 2015年書評委員会

酒井委員長（竹中常務理事代読）より、原稿を年報2015- I 編集委員長に送ったことが報告された。

##### ⑩ 2016年書評委員会

宇野委員長より、現時点における活動状況が報告された。

##### ⑫ 査読委員会

谷口委員長から、現時点における活動状況が配付資料により報告された。『年報政治学2015- I』の投稿数は12本（特集公募論文2本、独立公募論文10本）あり、結果は「掲載可」が6本、査読継続中が2本、「掲載不可」が2本、論文取り下げが2本であった。『年報政治学2015- II』の投稿数（3月14日時点）は2本（すべて独立公募論文）あり、査読中が1本、論文取り下げが1本となっている。英文査読雑誌の投稿数は1本あり、

現在査読中とのことであった。

## ⑬ 研究交流委員会

堤委員長から、現時点における活動状況が配付資料により報告された。11月1日から12月末にかけて2015年度大会における分科会設置申請を受け付けたところ、9つの研究会から応募があり、応募締め切り後、研究交流委員による評価を行い、その結果を企画委員会に送付したとのことである。分野別研究会の責任者の改選については、政治学方法論研究会から池田謙一氏が次期責任者を務める（2期目）との届け出を受けたことが報告された。その他、次期活動計画等の提出時期の統一、活動実績の提出の明文化、分野別研究会の設置認可取り消しの制度化について検討を進めている旨報告があった。

## ⑭ 英文雑誌編集委員会

西川委員長より、現時点における活動状況が報告された。

## ⑮ 選挙管理委員会

横田委員長（竹中常務理事代読）から、選挙日程について以下の報告がなされた。4月18日、第1回委員会開催（東北大学）。5月半ば、投票用紙

発送。6月30日、投票締切り。7月11日、第2回委員会開催（東北大学）、開票。理事選挙の結果について理事長に報告。

## (3) 事務局報告

① 国際文献社との業務委託契約について、承認された2015年度予算に基づいて継続する旨報告があった。

② 国際文献社の倉庫の保管物について、1987年3月の理事会決定等に基づいて保存・廃棄の分別を行っていくことが配付資料により報告された。

③ 2015年度の年間予定について配付資料により報告があった。

## (4) 次回（2015年度第1回理事会）の開催について

以下の開催予定が報告された。

日時：2015年6月6日（土）14時00分～

場所：〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学今出川キャンパス光塩館地下会議室

以上

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 日本政治学会 平成26年度収支計算書（会計別）

平成26年3月1日から平成27年2月28日まで

（一般会計）

（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
<b>【経常収入の部】</b>				
I 会費収入	11,500,000	11,563,500	63,500	
II 雑収入	120,000	73,064	△ 46,936	
経常収入合計 (A)	11,620,000	11,636,564	16,564	
<b>【経常支出の部】</b>				
I 事業費	8,170,000	7,206,308	△ 963,692	
1 研究会開催費	1,300,000	1,200,645	△ 99,355	
研究会準備金	600,000	600,000	0	
大会プログラム集作成費	650,000	600,645	△ 49,355	
報告者礼金	50,000	0	△ 50,000	
2 委員会経費	720,000	23,292	△ 696,708	
年報委員会	200,000	1,876	△ 198,124	
査読委員会	70,000	0	△ 70,000	
企画委員会	70,000	0	△ 70,000	
研究交流委員会	70,000	0	△ 70,000	
文献委員会	140,000	0	△ 140,000	
書評委員会	70,000	5,216	△ 64,784	
英文雑誌編集委員会	100,000	16,200	△ 83,800	
選挙管理委員会	0	0	0	
3 印刷費	5,650,000	5,803,891	153,891	
会報印刷費	400,000	358,477	△ 41,523	
年報印刷費	4,450,000	4,795,956	345,956	
英文雑誌作成費	800,000	649,458	△ 150,542	
4 年報委員会補助	500,000	178,480	△ 321,520	
5 選挙管理費	0	0	0	
II 管理費	3,230,000	3,692,734	462,734	
1 理事会経費	40,000	45,806	5,806	
2 事務局経費	190,000	143,262	△ 46,738	
運営費	50,000	0	△ 50,000	
人件費	40,000	0	△ 40,000	
経常費	50,000	39,651	△ 10,349	
慶弔費	0	0	0	
事務局移転費	50,000	103,611	53,611	
3 国際文献社業務委託費	3,000,000	3,503,666	503,666	
基本業務委託費	3,000,000	3,503,666	503,666	
J-STAGE	0	0	0	
ホームページ	0	0	0	
法人格取得費	0	0	0	
4 前年度会計監査料	0	0	0	
経常支出合計 (B)	11,400,000	10,899,042	△ 500,958	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	220,000	737,522	517,522	
<b>【その他資金収入の部】</b>				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
<b>【その他資金支出の部】</b>				
I 名簿作成積立金	200,000	200,000	0	
II 国際交流基金積立金	300,000	300,000	0	
III 予備費	500,000	271,835	△ 228,165	
その他資金支出合計 (E)	1,000,000	771,835	△ 228,165	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 780,000	△ 34,313	745,687	
前期繰越収支差額 (G)	19,656,863	19,656,863	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	18,876,863	19,622,550	745,687	

# 学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
<b>【経常収入の部】</b>				
Ⅰ 本年度積立金	200,000	200,000	0	
Ⅱ 受取利息	0	75	75	
経常収入合計 (A)	200,000	200,075	75	
<b>【経常支出の部】</b>				
Ⅰ 事業費	0	0	0	
1 名簿作成費	0	0	0	
2 事前調査費	0	0	0	
経常支出合計 (B)	0	0	0	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	200,000	200,075	75	
<b>【その他資金収入の部】</b>				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
<b>【その他資金支出の部】</b>				
その他資金支出合計 (E)	0	0	0	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	200,000	200,075	75	
前期繰越収支差額 (G)	612,855	612,855	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	812,855	812,930	75	

(国際交流基金)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
<b>【経常収入の部】</b>				
Ⅰ 本年度積立金	300,000	300,000	0	
Ⅱ 受取利息	0	0	0	
Ⅲ 雑収入	0	0	0	
経常収入合計 (A)	300,000	300,000	0	
<b>【経常支出の部】</b>				
Ⅰ 事業費	3,105,000	2,503,640	△ 601,360	
1 国際交流プログラム助成費	1,100,000	736,526	△ 363,474	
2 企画委員会国際交流セッション	35,000	0	△ 35,000	
3 国際交流委員会経費	70,000	0	△ 70,000	
4 IPSA 分担金	400,000	437,164	37,164	
5 IPSA 執行委員渡航費補助	1,100,000	1,329,950	229,950	
6 大会開催校補助	100,000	0	△ 100,000	
7 国際シンポジウム開催費	300,000	0	△ 300,000	
8 英文雑誌編集委員会経費	0	0	0	
9 英文雑誌作成費	0	0	0	
経常支出合計 (B)	3,105,000	2,503,640	△ 601,360	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 2,805,000	△ 2,203,640	601,360	
<b>【その他資金収入の部】</b>				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
<b>【その他資金支出の部】</b>				
Ⅰ 予備費	500,000	0	△ 500,000	
その他資金支出合計 (E)	500,000	0	△ 500,000	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 3,305,000	△ 2,203,640	1,101,360	
前期繰越収支差額 (G)	5,270,488	5,270,488	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	1,965,488	3,066,848	1,101,360	

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 日本政治学会 平成26年度収支計算書（総括）

平成26年3月1日から平成27年2月28日まで

（単位：円）

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合 計
<b>【経常収入の部】</b>				
I 会費収入	11,563,500		0	11,563,500
II 雑収入	73,064	75	0	73,139
III 本年度積立金	0	200,000	300,000	500,000
経常収入合計 (A)	11,636,564	200,075	300,000	12,136,639
<b>【経常支出の部】</b>				
I 事業費	7,206,308	0	2,503,640	9,709,948
1 研究会開催費	1,200,645			1,200,645
研究会準備金	600,000			600,000
大会プログラム集作成費	600,645			600,645
報告者礼金	0			0
2 委員会経費	23,292			23,292
年報委員会	1,876			1,876
査読委員会	0			0
企画委員会	0			0
研究交流委員会	0			0
文献委員会	0			0
書評委員会	5,216			5,216
英文雑誌編集委員会	16,200			16,200
選挙管理委員会	0			0
3 印刷費	5,803,891			5,803,891
会報印刷費	358,477			358,477
年報印刷費	4,795,956			4,795,956
英文雑誌作成費	649,458			649,458
4 年報委員会補助	178,480			178,480
5 選挙管理費	0			0
6 名簿作成事業費		0		0
名簿作成費		0		0
事前調査費		0		0
7 国際交流基金事業費			2,503,640	2,503,640
国際交流プログラム助成費			736,526	736,526
企画委員会国際交流セッション			0	0
国際交流委員会経費			0	0
IPSA 分担金			437,164	437,164
IPSA 執行委員渡航費補助			1,329,950	1,329,950
大会開催校補助			0	0
国際シンポジウム開催費			0	0
英文雑誌編集委員会経費			0	0
英文雑誌作成費			0	0
II 管理費	3,692,734			3,692,734
1 理事会経費	45,806			45,806
2 事務局経費	143,262			143,262
運営費	0			0
人件費	0			0
経常費	39,651			39,651
慶弔費	0			0
事務局移転費	103,611			103,611
3 国際文献社業務委託費	3,503,666			3,503,666
基本業務委託費	3,503,666			3,503,666
J-STAGE	0			0
ホームページ	0			0
法人格取得費	0			0
4 前年度会計監査料	0			0
経常支出合計 (B)	10,899,042	0	2,503,640	13,402,682
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	737,522	200,075	△ 2,203,640	△ 1,266,043
<b>【その他資金収入の部】</b>				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	0
<b>【その他資金支出の部】</b>				
I 名簿作成積立金	200,000			200,000
II 国際交流基金積立金	300,000			300,000
III 予備費	271,835			271,835
その他資金支出合計 (E)	771,835	0	0	771,835
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 34,313	200,075	△ 2,203,640	△ 2,037,878
前期繰越収支差額 (G)	19,656,863	612,855	5,270,488	25,540,206
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	19,622,550	812,930	3,066,848	23,502,328

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 貸借対照表総括表

平成27年2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合計
<b>【資産の部】</b>				
流動資産				
現金預金	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542
現 金	0	0	0	0
振替貯金	15,784,741	0	0	15,784,741
普通預金	4,544,023	812,930	3,066,848	8,423,801
流動資産合計	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542
<b>【負債の部】</b>				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	172,500			172,500
未払費用	533,714			533,714
流動負債合計	706,214	0	0	706,214
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	706,214	0	0	706,214
<b>【正味財産の部】</b>				
前期繰越正味財産	19,656,863	612,855	5,270,488	25,540,206
当期正味財産増加額（減少額）	△ 34,313	200,075	△ 2,203,640	△ 2,037,878
正味財産合計	19,622,550	812,930	3,066,848	23,502,328
負債・正味財産合計	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 財産目録

平成27年2月28日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合計
<b>【資産の部】</b>				
流動資産				
現金預金 手許有高	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542
現金	0			0
振替貯金 ゆうちょ銀行 019 店	15,784,741			15,784,741
普通預金 ゆうちょ銀行 008 店	4,544,023			4,544,023
三菱東京 UFJ 銀行神保町支店		812,930		812,930
三菱東京 UFJ 銀行神保町支店			3,066,848	3,066,848
流動資産合計	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542
<b>【負債の部】</b>				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	172,500			172,500
未払費用 委託費他	533,714			533,714
流動負債合計	706,214	0	0	706,214
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	706,214	0	0	706,214
<b>【正味財産の部】</b>				
前期繰越正味財産	19,656,863	612,855	5,270,488	25,540,206
当期正味財産増加額 (減少額)	△ 34,313	200,075	△ 2,203,640	△ 2,037,878
正味財産合計	19,622,550	812,930	3,066,848	23,502,328
負債・正味財産合計	20,328,764	812,930	3,066,848	24,208,542

平成26年度収支計算書、貸借対照表総括表、及び財産目録は、以上の通り相違ありません。

平成27年3月14日

監事

磯崎典世

Ⓜ

監事

岡本哲和

Ⓜ

\*「会報」は web で公開されるため、監査報告の監事は氏名の印字のみとし、署名および印影は省略しております。



# 学 会 ニ ュ ー ス

## 日本政治学会 平成27年度予算(案)

平成27年3月1日から平成28年2月29日まで

(一般会計)

(単位：円)

科目	予算額	備考
<b>【経常収入の部】</b>		
Ⅰ 会費収入	11,500,000	
Ⅱ 雑収入	1,000	
経常収入合計 (A)	11,501,000	
<b>【経常支出の部】</b>		
Ⅰ 事業費	8,960,000	
1 研究大会開催費	1,490,000	
研究大会準備金	600,000	
大会プログラム集作成費	620,000	
研究大会関連業務費	220,000	
報告者礼金	50,000	
2 委員会経費	770,000	
年報委員会	200,000	
査読委員会	70,000	
企画委員会	70,000	
研究交流委員会	70,000	
文献委員会	140,000	
書評委員会	70,000	
英文雑誌編集委員会	100,000	
選挙管理委員会	50,000	
3 印刷費	5,700,000	
会報印刷費	400,000	
年報印刷費	4,800,000	
英文雑誌作成費	500,000	
4 年報委員会への補助費	300,000	
5 J-STAGE 関連経費	200,000	
6 選挙管理費	500,000	
Ⅱ 管理費	3,770,000	
1 理事会経費	50,000	
2 事務局経費	140,000	
運営費	50,000	
人件費	40,000	
経常費	50,000	
事務局移転費	0	
3 国際文献社業務委託費	3,580,000	
基本業務委託費	3,580,000	
法人格取得費	0	
4 前年度会計監査料	0	
経常支出合計 (B)	12,730,000	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 1,229,000	
<b>【その他資金収入の部】</b>		
その他資金収入合計 (D)	0	
<b>【その他資金支出の部】</b>		
Ⅰ 名簿作成積立金	0	
Ⅱ 国際交流基金積立金	858,152	
Ⅲ 予備費	700,000	
その他資金支出合計 (E)	1,558,152	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 2,787,152	
前期繰越収支差額 (G)	19,622,550	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	16,835,398	

# 学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予算額	備考
<b>【経常収入の部】</b>		
I 本年度積立金	0	一般会計からの繰入
II 受取利息	0	
経常収入合計 (A)	0	
<b>【経常支出の部】</b>		
I 事業費	600,000	
1 名簿作成費	0	
2 事前調査費	600,000	
経常支出合計 (B)	600,000	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 600,000	
<b>【その他資金収入の部】</b>		
その他資金収入合計 (D)	0	
<b>【その他資金支出の部】</b>		
その他資金支出合計 (E)	212,930	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 812,930	
前期繰越収支差額 (G)	812,930	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	0	

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予算額	備考
<b>【経常収入の部】</b>		
I 本年度積立金	858,152	一般会計からの繰入
II 受取利息	0	
経常収入合計 (A)	858,152	
<b>【経常支出の部】</b>		
I 事業費	3,425,000	
1 国際交流プログラム助成費	1,000,000	
2 企画委員会国際交流セッション	35,000	
3 国際交流委員会経費	70,000	
4 IPSA分担金	520,000	
5 IPSA執行委員渡航費補助	1,400,000	
6 大会開催校補助	100,000	
7 国際シンポジウム開催費	300,000	
経常支出合計 (B)	3,425,000	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 2,566,848	
<b>【その他資金収入の部】</b>		
その他資金収入合計 (D)	0	
<b>【その他資金支出の部】</b>		
I 予備費	500,000	
その他資金支出合計 (E)	500,000	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 3,066,848	
前期繰越収支差額 (G)	3,066,848	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	0	

## 事務局より

### 会費納入についてのお願い

年会費をまだ納入されていない方が若干おられます。何とぞ速やかにご協力のほど、お願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。また、シニア会員（会費5,000円）および終身会員（一時金30,000円又は20,000円）の制度がございますので、ぜひご利用下さい。郵便振替により、以下の口座番号、加入者名あてに納入をお願いいたします。

口座番号：00120-2-500664

加入者名：日本政治学会

なお、2015年度末までに2015年度および2014年度の会費を納入されなかった会員の方は、「日本政治学会規約」第8条に基づき、自動的に退会扱いとなりますので、ご注意ください。会費の納入状況につきましてご不明な点は、国際文献社までお問い合わせ下さい。

### 訃 報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

- |       |  |
|-------|--|
| 大塚桂氏  | 駒澤大学法学部教授 政治思想史、政治的多元主義・社会連帯主義 1960年生まれ          |
| 中馬清福氏 | 信濃毎日新聞社主筆 平和・軍事研究、政治情報・マスコミ論 1935年生まれ            |
| 清水望氏  | 早稲田大学政治経済学部名誉教授 政治制度論（主としてヨーロッパ）、法制・憲法論 1924年生まれ |
| 有賀弘氏  | 東京大学名誉教授・日本大学教授 ヨーロッパ政治思想史 1934年生まれ              |
| 安部博純氏 | 北九州市立大学名誉教授・福岡県立大学名誉教授 日本政治史、日本外交史 1929年生まれ      |
| 泉田渡氏  | 帝京平成大学 政治過程論、政治社会学、現代社会論 1948年生まれ                |

## 本号の目次

1. 日本政治学会2015年度研究大会について…………… 1
2. 日本政治学会2015年度研究大会プログラム…………… 2
3. 研究大会報告論文の公開・入手方式について…………… 9
4. 研究大会開催校（千葉大学）からのお知らせ…………… 9
5. 『年報政治学』論文公募のお知らせ…11
6. 英文雑誌論文公募のお知らせ……………13
7. 理事会議事録……………13
8. 平成26年度決算（案）……………20
9. 平成27年度予算（案）……………25
10. 事務局より……………27

2015年6月15日発行

発行 日本政治学会事務局

竹 中 佳 彦

〒305-8571 つくば市天王台1-1-1

筑波大学人文社会系（国際日本研究専攻事務室気付）

日本政治学会事務局

FAX: 029-853-7454

E-mail: [jpsa-office@ml.cc.tsukuba.ac.jp](mailto:jpsa-office@ml.cc.tsukuba.ac.jp)

<http://www.jpsa-web.org/>

---

(株)国際文献社

日本政治学会担当（住所変更・会費）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

Phone: 03-5937-0317

FAX: 03-3368-2822

E-mail: [jpsa-post@bunken.co.jp](mailto:jpsa-post@bunken.co.jp)

---

印 刷 (株)国際文献社